

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旭ヶ丘病院プロジェクト	階数	地上3F
建設地	埼玉県日高市大字森戸新田字内久	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	680 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2023年5月15日
敷地面積	12,757 m ²	作成者	神田琴絵
建築面積	2,006 m ²	確認日	2023年5月26日
延床面積	5,329 m ²	確認者	神田琴絵



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 比較的広い敷地における計画のため、敷地内や屋上を可能な限り緑化し、温熱環境の向上や、ヒートアイランド対策を行う。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 建築材料は全般的にF☆☆☆☆を使用し、可能な限り化学汚染物質の発生を抑制する。	Q2 サービス性能 病院という機能から、非常用発電設備などを備え、信頼性の高い建物とする。耐震性に関する重要度係数については2次設計で評価している。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内を可能な限り緑化し、敷地内の温熱環境の向上に取り組むとともに良好な景観を形成する。建物高さを既存の建物よりも低く設定し、かつ敷地境界からセットバックすることで周囲への圧迫感ないように配慮する。色彩は無
LR1 エネルギー 建物の断熱性能を高め、熱負荷抑制を行う。	LR2 資源・マテリアル 完全ノンフロンタイプの現場発泡断熱材を使用する。	LR3 敷地外環境 十分な駐車スペースを確保し、敷地周辺への交通負荷抑制に努めた

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
旭ヶ丘病院プロジェクト

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境					0.40	-	-	3.1	
1 音環境				3.0	0.15	2.8	1.00	2.9	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				3.0	0.40	2.7	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.8	1.00	3.1	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		病室:2.0%≤昼光率		3.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御		ベッドごとに制御可能な照明器具を設置する。		3.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気質環境				3.4	0.25	3.6	1.00	3.4	
4.1 発生源対策				3.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料はF☆☆☆☆を使用し、化学汚染物質の発生を抑制する。		3.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能					-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御		敷地内は全面禁煙とする。		5.0	1.00		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3	
1 機能性				3.1	0.40	4.2	1.00	3.3	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		個室10㎡/床、かつ多床室8㎡/床以上。			-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観					-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理				3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		①内装仕上げ:内壁面は大部分を塩ビクロスとし清掃性に配慮する。 ②③内装仕上げ:床面はノンワックス塩ビシート床材とすることで、水を使用して洗浄可能とし、防汚性に配慮する。 ⑤内装設計:風除室の1次扉と2次扉が同時に開かないように距離を確保する。 ⑧外装設計:効果的に水切りなどを外壁面へ設置し壁面が汚れないような配慮する。 ⑪外構:人が出入りする箇所については段差とならない縁石を採用している。		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.4	0.30		-	3.4	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		2次設計において建築基準法に定められた25%増の耐震性とする。		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		

2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.3	0.30	3.3	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高3.7m以上3.9m未満を確保している。	4.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	建築全体:0.1≦壁長さ比率<0.3	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物高さを既存の建物よりも低く設定し、かつ敷地境界からセットバックすることで周囲への圧迫感がないように配慮する。 敷地内を可能な限り緑化し、敷地内の温熱環境の向上に取り組む。 前面道路からの見え方に配慮して建物の正面玄関を設定し車回しに緑化を行う。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BP]m= 0.63	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BE]m = 0.87	2.6	0.50	-	-	2.6
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		・洋風大便器はフラッシュタンク式(4.8L/回)を採用している。 ・小便器の洗浄はセンサー式とし、洗浄水量の抑制を図っている。(1.0L/回) ・手洗器には自動水栓を積極的に採用することで、無駄な流出を少なくし、節水効果を図っている。 ・流し台のシングルレバー式水栓は泡沫水栓とし、流出水量の調節により、節水効果を図っている。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	完全ノンフロンタイプの現場発泡断熱材を使用する。	5.0	0.50	-	-	

	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率=89%		3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	浸透トレンチ、浸透樹により宅内処理としている。		4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	II-1)現状の駐車スペース量を確保している。 2)管理用車両の駐車スペースを確保している。 3)導入路を確保している。		4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.50	-	-	
2	振動			3.0	0.50	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート












■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	旭ヶ丘病院プロジェクト	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	-------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.4	+	2.0	=	5.4	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
	 	  	   		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.4
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
<配慮した内容を記述> 建物を低く抑えることで敷地外の日照を確保している。 CO2排出率89%			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 敷地東側の高木についてはできる限り残すよう配慮している。			

: 入力欄